

I テキスト外の課題

時間の許すかぎり、テキストに直接関連しない課題も設定したいと思います。解説・コメントは別途ファイルに掲載しますので、いっそう深い学習のために役立ててください。

● 第1回4/8(月)

課題1: リフレ論争の4/7日経記事を素材に、「今日の会計問題と重なる論点を、記事の**一カ所**を具体的に示して説明せよ」

感想:3年生には少し難しい課題かと思っていたが、さすがに早稲田の学生はレベルが高い。5班それぞれが、それぞれ別々の箇所を指摘して、そつなくちゃんと会計問題との共通点を見つけ説明したのには驚きだった。4年生は、私がこの箇所を指摘したら大学院レベルだと思っていた箇所(哲学の違い、対立を呼ぶ)をちゃんと指摘。先輩らしく一段とレベルの高い解答だった。

● 第2回4/15(月)

ゼミ幹事小森君へのメール連絡

15日の辻山論文の討議ポイントを私のHPにあらためて掲載しています。ゼミ生にご紹介しておいてください(グループメールでも)。最後の4ページが追加になっています。

<http://www.komazawa-u.ac.jp/~ishikawa/waseda.pdf>

課題を与えます。

課題2: 「アンカー(anchor)」の適訳を示し、その点から公正価値会計の特性を指摘しなさい。(来週4/22の1つの課題とします。)

解答とコメント:(錨のように)固定、安定させるもの、固定(安定)装置

→現代の会計をこの点からみると→その安定装置はもはやない

→現代会計での何か別のアンカーがあるか

課題3: 売買目的有価証券の時価評価益を、課題2での「アンカー」をキーワードにして、それが伝統的会計の枠内かどうか、枠内・枠外のそれぞれの見地で論じなさい(論点整理をおこなう)。

※ヒント:枠内とするには「アンカー」として、その意味内容に何らかの修正(拡大)が必要か。枠外とするなら、その根拠付けが必要:アンカーの意味合いの延長上にあるかないか、固定(安定)装置の意味合いがどこまで保持できるか(その意味を失う)。

● 第3回4/22

前回ゼミでお話した、(もしあるなら)「学問の力とは何か」に関しては、拙稿「複式簿記の見方・考え方・教え方(下)」の10.4「今大切なこと」、11「学問と世間」(86-87頁)を参照してください(HPの「最近の論考」コーナーに掲載)。そこで、1つ課題。

課題4:教授は professor と言いますが、その語源(profess)から拙稿の主張と通じる点を見つけよ。※ヒント:2つの(相反する)意味。ものごとを根っ子から捉える意義はどういう点にあるか。

→次週4/29は祝日(昭和の日)ですので、次回の5/6までに回答を試みよ(各班代表が原稿と1分間スピーチ)。

profess の意味:①装う、振りをする、②公言する、明言する。②が真の profess するひと (professor 教授)の仕事(学問)。では何を公言、明言するか。これが重要になる。

語源をたどることの意義:物事を根っ子(根源的なもの)から見ると→一見まったく異なるように見えるものがつながってみえてくる。語源はこの「つながり」の視点を提供する。

● 第5回5/13

課題4:会計学のテキスト構成のあり方に2つのタイプが考えられる。それを示して、それぞれの構成をとることの理由・根拠を述べなさい。

参考:副読本の第4章「変容の全体的捉え方」

II テキスト学習の論点と課題

以下のQ設定は事前に準備したものでなく、各班のゼミ報告を聞きながらのもので、難易度のレベルもまちまちですが、いっそうの学習のために利用下さい。

なお、私のHPに解答への参考資料も掲載されています。それぞれのQには難易度レベルも示していますので、各自適当に選択していっそうの学習に役立ててもらえればと思います。

● 第3回4/22 第1章「財務会計の機能と制度」

- Q1: 損益勘定から残高勘定への「振替」(初級レベル)→なぜ振替が必要か(中級レベル)
- Q2: 収益・費用勘定の性格規定(中級・上級レベル)→資本の従属(下部)勘定か(sub-account)、独立の勘定か?
→収益費用アプローチと資産負債アプローチ、資本等式(A=L+K)などの関わり(上級)
- Q3: 株主、経営者に加えて「会社」の位置を示せ→その上で「会社」と株主との関係(関係1)、「会社」と経営者の関係(関係2)を考えよ(上級)。さらに補足すれば、エイジェンシー関係とみてよいか(テキスト7頁)? ※拙著『変貌する現代会計』エピローグ参照。
- Q4: 会社法と金商法との関係は(中級)→会計のあり方の相違とどう結びつくか、③との関わりもふくめて(上級) ※私のHPに掲載(興味のある人は、自らが試してみてください)
- Q5: 資本充実にに関して、株主有限責任とはどう関係しているか(中級)→それが現代においてどう変容しているか、省令委任の意味合いは(上級) ※前掲拙著第10章参照。

※次回5/6は、2週間あきますので、第2章と(今回の議論と関係する)第11章を、すべてできるかどうかわかりませんが、ともかくも準備してみてください。

● 第4回5/6 第2章「利益計算の仕組み」

- Q1: 貸借対照表等式(資産=負債+資本)について
→概念フレームワークではどうか
- Q2: (p.26の1行目とも関わって)時価評価と伝統的な枠組みでの「取引」について
→性格は同じか、違うか

Q3: 取引の2面性と財務諸表(P/LとB/S)の二面性→ブロック構造(積み上げ構造)か組み込み構造か? ※拙著『複式簿記のサイエンス』第1章

Q4: 図表2-6貸借対照表等式による取引の分析
→資本等式ではどうなる(上級)、→三分法ではどうなる
※拙著『複式簿記のサイエンス』第2章

Q5: B/Sを投資のポジション、P/Lを投資の成果と言うのか→キーワードは「投資」であるが、それはなぜか? ※拙著『変貌する現代会計』第8章。

Q6: クリーン・サープラス関係につき辞典で調べよ。→こういうタームはなぜ出てきたか。従来(伝統的な枠組み)ではどうだったのか。

Q7(重要): クリーン・サープラス関係を回復するとはどういうことか p.45→従来は純利益から資本への振替、つまりフロー(利益)からストック(資本)への順序で始めからクリーン。それが維持できなくなり(ダーティ)、そもそもの原因は何なのか(上級)。そして「その他の包括利益(OCI)」の役割は(上級)。

Q8(重要): 「時価評価差額は、取引を経て実現された利益ではない」(p.46)について→売買目的有価証券の時価評価損益も時価評価差額だが、それは「取引」を経て実現された利益なのか? 利益ならなぜそうなのか?

● 5/6 第11章「株主資本と純資産」第2節まで

Q1: (中級) その他資本剰余金の配当可能性に関して→本来的に拘束性をもつ資本がなぜ配当可能になったのか(利益配当から剰余金配当へ)、会計上の基本原則「資本取引と損益取引の区別」に抵触しないのか ※拙著『変貌する現代会計』第10章

Q2: (上級) 資本取引と損益取引の説明(p.253-54)において、その対象は図表11-2のどこで、言及されていないのはどこか。その理由は?

Q3: (上級) 新株予約権の会計処理の設例を説明し、論点は何かを述べなさい。

Q4: (中級: 自己株式に関して1) 自己株式(金庫株)の事例を新聞記事でいくつかあげ、その必要性など時事的解説をしなさい。

Q5(上級: 自己株式に関して2): 自己株式処分差益の性格、剰余金概念の曖昧さについて意見を述べなさい。

→※Q4, 5は拙著『変わる社会、変わる会計』トピック13「金庫株会計と会計問題」参照

● 第5回5/13 第3章「会計理論と会計基準」

Q1: 本章に関して、会計学のテキスト構成のあり方(2つのタイプ→課題4参照)の特徴を述べよ。

Q2: (上級) 61 ページの図表3-2に関し、

- ① 2つの取引区分の対象範囲について論じなさい(第11章の図表11-2参照)。
- ② その他資本剰余金の配当可能性についてコメントせよ。

Q3: (上級) 「資本と利益の区別の原則」の前段と後段の規定について、特にその相違について述べよ。

● 5/13 第4章「利益測定と資産評価の基礎概念」

Q1: 74-75 ページの収支が収益・費用の金額決定のための「測定の基準」、つまり「収入支出額基

準であることに関して、

① (今や中級) その意味について、課題2の「アンカー」でもって説明しなさい。

② (上級) 現代の会計とその基準について述べなさい。

Q2: 売買目的有価証券の時価評価益は「対応」原則で説明できるかどうか、述べなさい。

Q3: 売買目的有価証券につき、いつでも売却可能ゆえにリスクから解放されている(p.79)、という点についてコメントしなさい。

Q4: (上級) 取替原価基準の長所としての「物的資本維持」(p.83)について、

① 特に利益計算の算定基準としての資本に言及し、取得原価主義会計と比較しなさい。

② 関連して、それとの対比で今日の時価会計を説明しなさい。

Q5: (上級) 純実現可能額ないし正味売却価額について(p.83)、

① 売却損益はでない根拠を述べなさい。

② 売買目的有価証券のケースと対比しなさい。

Q6: 割引現在価値による資産評価と利益計算の設例に関して、

① まず数値例を説明しなさい。

② (重要) 経済的利益計算と会計的利益計算の相違はどこにあるか。

Q7: (上級) 事業用資産と金融資産に関して(p.87)

① 資産評価と利益計算との関係は、それぞれの資産につきどうなっていますか。

② 一般に資産評価と利益計算との関係について対立する思考を述べなさい。

※今後の日程予定(5/20)

5/20: 第5章「現金預金と有価証券」(28ページ)

5/27: 第6章「売上高と売上債権」(24ページ)

6/10: 第7章「棚卸資産と売上原価」(22ページ)

6/17: 第8章「有形固定資産と減価償却」(34ページ)

6/24: 第9章「無形資産と繰延資産」(18ページ)

+ 第11章「現金預金と有価証券」第3節からの残り(14ページ)

● 第6回5/20 第5章「現預金と有価証券」

Q1: 「キャピタルゲイン」の定義を辞書で調べ(売却益)、評価損益との関わりを述べよ。

Q2(中級): 自己株式の資産説(従来の説)と資本控除説の根拠の相違について述べよ。

Q3: 有価証券などの金融商品の取得記録に「約定日基準」が原則適用される理由を述べなさい。また「洗い替え方式」が取られる理由はどこにあるか、答えなさい。

Q4: 契約のあと受け渡しが行われる場合、「修正受渡日基準」の受け渡し日までの時価変動はどのように記録されますか。またその理由は。

Q5: その他有価証券に「洗い替え方式」が取られる理由は何ですか。売買目的有価証券ではどうですか。

Q6(上級):純資産直入法とクリーン・サープラス関係(p.104)について、

1)「評価差額金」と「その他の包括利益」との相違は何ですか。クリーン・サープラス関係に即して答えなさい。

2)クリーン・サープラス関係を満たすためなら、なぜ連結のみに適用されますか？単体に適用されないとした場合、そもそもその他有価証券のB/Sでの時価表示は不要ではないですか(注記事項として情報開示)？ヒント:単体は投資判断情報の提供ではない

Q7(上級)ヘッジ会計が「特殊な」会計処理とされている理由を述べなさい。ヒント:繰延ヘッジ損益(OCI)→他のOCI項目との共通性に着目

Q8:「利益の質」とはどういうことですか。

Q9(上級):資本、キャッシュ、利益の2つの関係について述べなさい。→拙著『複式簿記のサイエンス』参照

Q10:キャッシュ・フロー計算書の直接法は比較貸借対照表を用いているので(p.114の図表5-5)、文字通り「直接法」とは言えないように思いますが、取引から文字通り直接記録するにはどうすればいいですか。

Q11:間接法を $\Delta B/S$ 等式から導く方法を示しなさい。そのさい、P/L(p.117の図表5-7)は必要ですか？→拙著『複式簿記のサイエンス』参照

※今後の日程予定(5/27)

6/10:第7章「棚卸資産と売上原価」(22ページ)

+第8章「有形固定資産と減価償却」(34ページ)

6/17:第9章「無形資産と繰延資産」(18ページ)

+第11章「現金預金と有価証券」第3節からの残り(14ページ)

● 第7回5/27 第6章「売上高と売上債権」

Q1:販売基準、生産基準、回収基準のいずれにも共通する収益認識の基礎にあるものはなんですか。ヒント:農産物に生産基準が適用されるのはなぜですか。

Q2(上級):会計認識と経済的事象(実態)との相違について述べなさい。

Q3(中級):貸倒懸念債権の貸倒引当金の2つの算定方法の相違の基礎にあるものを述べなさい。

Q4(上級):Q3に関連して繰延税金資産での2つの方法の掘って立つ見地について述べなさい。
→副読本『変貌する現代会計』p.135-136

● 第8回6/10: 第7章「棚卸資産と売上原価」

Q1(中級):費用性資産と貨幣性資産を企業の営業循環過程の観点から説明しなさい。

Q2(上級):(売買目的)有価証券はQ1での資産分類のいずれかについて論述せよ。

Q3(上級):企業の営業循環過程の観点(投下資本の回収剰余計算の枠組み)から現代会計の異質性を述べなさい。

Q4(中級):仕入勘定で売上原価を計算する「3分法」の欠点を述べ、「売上原価」勘定を設けることの意味を述べなさい。

Q5(上級):後入先出法の廃止の理由を、IFRSの会計思考に即して論じなさい。

→NHK出版『社会のなかの会計』第7章補論7.1

Q6:先入先出法と後入先出法につき、「そのつど法」と「月別・年度別法」(152頁)について述べなさい。

Q7(中級):「洗い替え法」と「切り離し法」と、評価損の要因との関係(162頁)について述べなさい。
その他有価証券、売買目的有価証券のケースはどうか。

※今後の日程予定(6/10改訂)

6/17:第8章「有形固定資産と減価償却」(34ページ)

+第9章「無形資産と繰延資産」(18ページ)

6/24:第10章「負債」(34ページ)

7/1:第11章「株主資本と純資産」第3節からの残り(14ページ)

+第12章「財務諸表の作成と公開」(38ページ)

7/8、7/15:第13章「連結財務諸表」(68ページ)、

7/22(最終回):第13章(残った場合)+第14章「外貨建取引等の換算」(20ページ)

● 第9回6/17:第8章「有形固定資産と減価償却費」、第9章「無形固定資産と繰延資産」
第8章に関して

Q1(国庫補助金・工事負担金、172頁):

会計主体論の見地から、資本説と利益説の根拠を説明せよ(中級)。連結会計との類似点は何か(上級)。

Q2(繰延利益、173、174頁):

利益説での積立金方式の積立時の仕訳を説明しなさい(中級)。積立金の取崩額(毎年100)の処理とOCI/リサイクリングの類似点を述べよ(上級)。

Q3(土地再評価差額金、192頁):

①土地再評価の経済的背景を指摘しなさい。→拙著『変わる社会、変わる会計』12「土地再評価法と会計問題—経済・財務政策と会計」での魔法の杖(中級)

②土地再評価差額金が貸方計上される理由を述べなさい。それが未実現利益と解されるなら、何かのケースと類似しているが、それは何か(上級)。さらに損益取引と資本取引の区分についても述べなさい。

Q4(賃借等不動産の時価情報、193頁):B/S本体は取得原価で時価情報は注記ですが、「その他有価証券」のケースと比較して、あなたの意見を述べなさい(中級)。なぜ、両者の扱いが異なるのですか。

第9章に関して

Q1(主観のれん、200頁):主観のれんの「主観」の主体は誰ですか。それが客観化される契機は何ですか(中級)。

Q2(M&Aの対価の計算、204-205頁):Q2とも関わって、対価の計算の主体と各種の評価方法について述べなさい(上級)。

Q3(買入のれん、204頁):買入のれんと全部のれんを、連結基礎概念にそくして述べなさい(中級)。さらに、昨年末のASBJ公開草案50号での見解を述べなさい(上級)。

Q4(株式交付費と会社法、210頁):会社法の規定の問題点を述べなさい(中級)。さらに、資本取引と損益取引の混同が、現代の会計に多くみられるようになった原因は何だと思えますか(上級)。

● 第10回6/24:第10「負債」

Q1(引当金と2つの中心観、219頁):資産負債アプローチからの引当金は考えられますか。もし考えられるなら、収益費用アプローチとの相違はどう説明できますか。(上級)。

Q2(注解18の4つの要件、221頁):将来の費用を(3つの条件のもとで)現在の費用にするとする規定は、形容矛盾ではないですか。改訂前の要件と比較して、どちらが本来の引当金の説明になっていますか。(中級)

Q3(繰延税金資産の資産性の根拠と性格):資産性の性格を述べなさい。その資産性が認められない場合はどういう場合ですか。銀行の不良債権問題(2002年の竹中プランなど)を踏まえて説明しなさい。(上級)

→拙著『変わる社会、変わる会計』トピック10「不良債権の会計・監査問題」参照。

Q4(税効果会計の2つの会計方法、227頁):2つの方法(繰延法と資産負債法)の相違を、その基礎にある考え方にそって説明し、そのことで伝統的な考え方と相違する現代会計の基礎にある思考を述べなさい。(上級)

→拙著『変貌する現代会計』132-135頁参照。

Q5(過去勤務費用と数理計算上の差異の全額認識とリサイクリング、244頁):過去勤務費用と数理計算上の差異の全額を負債に計上する根拠を、現代会計の基本思考に即して、説明しなさい。そして、その全額を徐々に費用化する(リサイクリング)根拠はどこに見出せますか。さらに、改訂前の遅延認識との異同を述べなさい。(上級)

Q6(※OCI/リサイクリングの性格):OCI/リサイクリングの性格は一般的にどのように説明できますか。それと類似する他のケース(その他有価証券、繰延ヘッジ会計、為替換算差額、土地再評価差額など)を挙げて説明しなさい。(A+)

Q7(資産除去債務その1):2つの方法(資産負債の両建処理と引当金処理)のそれぞれの長短を述べなさい。さらに第3の方法は考えられるかどうか。(上級)

Q8(資産除去債務その2):資産除去債務の両建処理と退職給付会計での全額認識の方法との類似点を述べなさい。(上級)

Q9(資産除去債務その3):資産除去債務の両建処理において、減価償却=過去支出の配分であるとしたとき、将来支出の見越配分がなぜ減価償却となるのか。(上級)

Q10(資産除去債務その4):資産除去債務の両建処理において、割引率の設定を見直さない根拠を述べなさい。また、退職給付会計では割引率の見直しをする根拠を述べなさい。(上級)

Q11(偶発債務):条件付債務と偶発債務との境界の問題を、現代会計に見られる情報開示→B/S本体化→損益計算の観点から説明しなさい。そして、そうした実態・リスク開示志向から“結果的”に出てくる損益計算のあり方を、従来の期間損益計算のあり方と比較して述べなさい。(A+)

→拙著『変貌する現代会計』コラム6(116頁)参照。

※今後の日程予定(6/24)

7/1:第11章「株主資本と純資産」第3節からの残り(14ページ)

+第12章「財務諸表の作成と公開」(38ページ)

7/8、7/15:第13章「連結財務諸表」(68ページ)、

7/22(最終回):第13章(残った場合)+第14章「外貨建取引等の換算」(20ページ)

● 第11回7/1:第11「株主資本と純資産」第3節からの残り(14ページ)
第12章「財務諸表の作成と公開」

第11章に関して

Q1(企業結合と事業分離の会計):この2つの会計を統一的に捉える枠組み、あるいは観点があれば答えなさい。

また、両者は組織編成ゆえに組織法である会社法と関わるが、現代会計が組織よりも(証券)市場を中心に据えている金商法に根ざしている点との関係を述べなさい。(A+)

→拙著『変貌する現代会計』エピローグ参照。

Q2(負ののれん):負ののれんは必ずしもレアケースではない。なぜ負ののれんが生じるかを、実際のケースを挙げて論じなさい。(A)

→拙著『変わる会計、変わる日本経済』トピック10「伊勢丹・三越の経営統合と会計ー負ののれんの正体」参照。

Q3(剰余金の配当):配当可能利益ではなく、配当可能額(剰余金)となったのはなぜか。また、企業会計原則の重要原則「資本と利益の区別」に照らして、その変容を論じなさい。(中級)

→拙著『変貌する現代会計』第10章参照。

第12章に関して

Q4(計算書類と株主総会):総会決議でなく報告ですむ要件を会社法の条文に則して説明しなさい。また、なぜ総会での承認を要しないか、について述べなさい。(中級)

→会社法439条、取締役会の権限、機関設計など参照

Q5(包括利益計算書の表示様式、303ページ):2つの方式は単に形式上の相違ですか。それとも内容を含んだ相違とみるべきですか。(B)

Q6(リサイクリングと現代会計):OCI/リサイクリングという会計処理をいくつかのOCI項目を検討することで、そこに共通する性質は何かについて述べなさい。(＋A)

Q7(株主－会社－財産、株主資本・純利益－純資産・包括利益):純利益と包括利益の計算主体と計算思考の相違を、「株主－会社－財産」(所有の二重性)の観点から論じなさい。(＋A)

→拙著『変貌する現代会計』エピローグ参照。

Q8(株主資本等変動計算書の財務諸表化の理由と現代会計):B/SとP/Lの相互関連の複雑化の観点から、特に従来の利益処分計算書との相違を明らかにし、現代会計の1つの特徴としての財務諸表化であることを論じなさい。(＋A)

Q9(会計方針の変更、前期損益修正と遡及処理):伝統的な前期損益修正の基礎にどのような考え方があるか、それと今日の遡及処理の基礎にあるものとの相違を明らかにしなさい。なお、先のQ8とも関連があれば、記しなさい。(＋A)

● 第12回7/8:第13「連結財務諸表」第1節～第5節

Q1(金商法、会社法、税法、328-29 ページ):3つの異なる法規制での連結財務諸表の役割を述べなさい。(＋B)

Q2(連結基礎概念と個別の会計ルール、330 ページ図表 13-2):この図表の重要性をいくつかの観点から述べなさい。(＋B)

Q3(連単分離の項目、331 ページ):具体的にその項目を示しなさい。個別財務諸表基準性の原則とは逆にもみえますが、あなたの意見を述べなさい。(＋B)

Q4(特別目的会社SPCについて、335 ページ):SPCの連結問題の背景(ストーリー)について、事例をあげて述べなさい。さらに、連結会計の制度史におけるその現実的ストーリーについて述

べなさい。(＋B)

→ヒント:粉飾決算、会計不正など。SPC利用の実態などは、拙著『変わる会計、変わる日本経済』トピック4「サブプライム問題と会計」参照。

Q5(投資と資本の相殺消去その1、338-39 ページ):子会社のストック(資産・負債)を時価評価する理由、通常の実物商品(ここでは会社＝商品)の売買取引になぞらえて、説明しなさい。(＋B)

Q6(投資と資本の相殺消去その2、340 ページ):連結のれん(かつての「連結調整勘定」と個別での合併のれんは、本当に同じものかどうか、意見を述べなさい。(＋B)

Q7(投資と資本の相殺消去その3、342-43 ページ):全面時価法と部分時価法の相違を連結基礎概念に即して説明しなさい。

関連して、「[所有\(持分:株主\)と経営\(支配:会社\)の分離](#)」の観点から、説明しなさい。(＋B)

Q8(資本連結の手続きの複雑なケース):複雑なケースとして論点になるケースを5つ挙げ、それぞれの論点を示しなさい。(＋B)

Q9(資本連結の手続きその1、段階取得):「一括法」において過去の取得も時価で評価される理由を述べなさい。(＋B)

Q10(資本連結の手続きその2、子会社の増資):子会社の増資による持分比率が増減するケースは、追加取得と一部売却のケース(の効果)と同じであることを示しなさい。また、持分変動損益の性格を連結基礎概念から説明しなさい。(＋B)

Q11(子会社計上の未実現利益、361 ページ):全額消去と部分(親会社持分)消去の2つの相違を連結基礎概念から説明せよ。(B)

Q12(連結基礎概念と個別ルールの関係):以上、あらためて連結基礎概念と個別の会計ルール(関係(Q2参照))を全体的にチェックし、今後の行方(方向)について述べなさい。(＋B)

Q13(包括利益の表示、368 ページ):2 計算方式と1 計算方式は単に様式の相違にとどまらず、その基礎に考え方の相違がありますか。

また、包括利益は内訳区分で、純利益は非支配株主控除の形になっています。その表示の仕方の相違の考え方はどこにありますか。(＋B)

※今後の日程予定(7/8)

7/15:第13章「連結財務諸表」第6節～、

＋第14章「外貨建取引等の換算」(20ページ)

7/22(最終回):第14章残り＋全章の課題(本稿)のプリント持参

● 第13回7/15:第13「連結財務諸表」第6節～、第14章「外貨建取引等の換算」

第13「連結財務諸表」第6節～

Q1(連結株主等変動計算書の財務諸表での位置、369 ページ):P/LとB/Sとの2つの財務諸表の相互関係を説明しなさい。関連して、キャッシュ・フロー計算書の位置に関して異同を説明しなさい。(＋B)

Q2(配当規制と連単、369、283 ページ):連結財務諸表は金商法に根ざしていますが、連結配当規制適用会社の会社法での位置づけを説明しなさい。そのさい、連結基礎概念との関わりを述べなさい。(＋B)

→配当規制の基礎としての連単のB/S

Q3(持分法と受取配当金、376 ページ):被投資会社からの配当金の相殺消去の相手が投資株式になること理由を述べなさい。(＋B)

Q4(セグメント情報の開示とリアリティ&ストーリー、392 ページ):ニューヨークに上場している実際のケース(例えばソニーのアンニュアルレポート)で、どういうセグメント情報が開示されているか、そしてそこにどのような投資のグローバル戦略(マネジメント・アプローチ)がみられるか、確かめなさい。(B)

第14章「外貨建取引等の換算」

Q5(為替差損益の処理、二取引基準と一取引基準、404 ページ):外貨建有価証券の期末換算差額については、実物商品とは違って、為替変動に起因する部分を区別しない理由はどこにあると考えられますか。実物商品と金融商品との相違は考えられますか。(＋B)

Q6(為替予約、408 ページ):独立処理の長所を述べなさい。先の為替差損益での二取引基準や繰延ヘッジ会計の処理との類似点があれば、それはどういう点ですか。(＋B)

Q7(為替換算調整勘定、415 ページ):OCI項目としての為替換算調整勘定がリサイクルされるのは、どういうときですか。なぜリサイクルされるのですか。(＋B)

※次回7/22は最終回です。この「テキスト学習の論点と課題」をコピー持参してください。1時間ほどの総復習もかねて、重要なQの解説など行います。



7月22日(月)ゼミ最終回(3・4年生、大学院生)